







なるように切り開け。

○ハガキ一枚で、高さ四〇cm以上、多少の風にはビクともしない塔を作ってこい……:et  
c。

まるで一休さんとおしろうさんの知恵比べ、怪人二十面相の仕掛ける謎を解く明智探偵の如く、いかに先生を「うーむ」と言わせるか、大学生なのにまるで小学生の様にこの難解な宿題に追われる毎日が続いた。結局、枯れ葉散る秋、円すい地獄は八五〇でキブアッブ！ 他の課題も一つ二つを除いてはほめられる事も大してなかったが、知らぬ間にこの特訓は私の頭をグニャグニャに柔かくしていたのだった。

アイデアというものは、無い所から生み出すものではなく、世の中にある色々な事を上手につなげて作るものなのだ。つなぎ方がうまくいった物がいいアイデアと呼ばれるのである。そのヒントになる事柄はまるで夜空の星の如く無数に存在している。そこをのぞく窓を広く開ければそれだけ多くのヒントが見える。ヒントは多い程、つないでできるバリエーションは増え、当然いいものが生まれる率も高くなる。見る物全て円すいにならないかと探しまわっていたあの苦しみだが、私にその窓をいつでも広々と開ける癖をつけてくれた。そして飛行機をバナナにしたり、のり無しで紙をつないだり数々の無理難題に苦しめられたお陰で、私はどんな無関係そうな事柄同士でも上手に組み合わせられない事はまず無いという自信をもってそれにチャレンジできる様になった。「頭を柔かくする事」とは「色んな事柄を広く材料として見る事ができ、それらを組み合わせるのに不可能を感じず

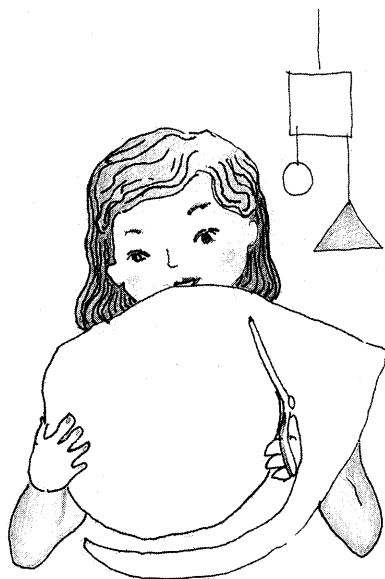


様な「紙ヒョーキ誕生カード」なんて物がスッと生まれてくる事があるわけだ。

この特訓に興味を持たれた方は手始めに丸い物をいくつ思いつけるか等やってみるとい  
いかもしれない。リンゴ：太陽：アンパン：お金：街を歩いていて丸い物が気になってく  
る様になれば、あなたのヒントの窓が少しずつ開く癖がついてきた証拠である。

「偉そうに、人のフンドシで相撲をとるな！」

鬼コーチ高山先生に言われそうである。



(クリエイター)